



石原農園のみなさん
前列左：徳明さん

食べてくれた人に、美味しいと喜んでももらいたい。

和水町でスイカ農家を営む「石原農園」さん。石原農園さんは、和水町でスイカづくりを始めて約50年。現在は石原徳明さんが中心となり、ご家族で営まれています。

収穫されたスイカは、菊水ロマン館やなんかんいきいき村、イオン等店舗での販売と、和水町のふるさと納税の返礼品にも出品されており、多くの方に喜ばれています。

農園として大切にしていることを伺うと、「食べてくれた人に、美味しいと喜んでももらいたい。」それが、一番だとおっしゃいます。そのために、徳明さんは毎日作業日誌を書き、その記録を参考に、ビニールハウスなどの施設や、栽培方法を工夫し、日々試行錯誤を繰り返し、より良いスイカづくりに励んでいらっしゃいます。ですので、販売してもらっているお店の人たちから、「石原農園さんのスイカは人気だから、沢山入荷させてほしい」などの感想を聞くと、とても嬉しいとおっしゃっていました。過去には、スイカがあまり好きではないという人に、自分たちのスイカを食べてもらったら、「スイカってこんなにおいしんですね。」と喜んでもらえたこともあるそうです。

自然相手のお仕事なので、大変なこともたくさんあり、つむじ風などでビニールハウスが破損することもある動物が作物を荒らしてしまうことも。特

に獣害は深刻で、タヌキやカラスだけではなく、ここ10年くらいの間に、アナグマやハクビシンなどによる被害も増えてきており、電気柵などの設置によりある程度は改善されたものの、対策に悩んでいる部分はいまでもあるとのことでした。

今後の農園について、徳明さんは「家族で経営しているので、それぞれの生活を充実させることも大切にしたい。仕事中は効率的に時間を使い、休日はしっかり休み、楽しむ。規模や売り上げを大きくすることだけを考えるのではなく、家族一人一人の生活の質も高めていきたい。」と話してくれました。個人個人の人生の満足度を上げるために、生活と仕事のバランスを大切にする、多くの人に取り入れてもらいたいとても素敵な考え方だと思いました。

協力隊活動記 Vol.62

こんにちは、地域おこし協力隊の大木将裕です。3月23日、和水町役場本庁にて令和4年度の活動報告を行いました。Instagramを活用した和水町の魅力発信や、お試し暮らし住宅の運用についてなど、活動の成果や課題など、はっきりする部分がたくさんありましたので、今年度の活動に反映させていきたいと思います。